

廃棄物資源循環学会「災害廃棄物対策・復興タスクチーム」

現場派遣一陣メモ（3月26日）

文責：平山・浅利

1. 活動場所：仙台市内（主に若林区及び宮城野区）
2. 活動内容：関係者への挨拶及び現地確認等
3. 現地の天候：午前中／沿岸部は小雨・市役所周辺は晴、午後／晴れ
4. ポケット線量計着用記録：1.56 μ Sv（7:30～19:30）
5. 感想や課題認識など
 - ・ 海ごみ（沿岸部津波廃棄物）と山ごみ（内陸部地震廃棄物）とでは、対処方策も、その立案に向けたプロセスやスケジュール・所要時間も大きく異なることが明確である。
 - ・ 山ごみについては、現段階では、排出量が多い（処理能力を超えている）／きめ細やかな分別対応ができていないといった点を除くと、一定落ちついているという印象である。他の調査・支援が落ち着いた時点で、仙台市をモデルに経緯や対処を整理することで、今後、復旧を目指す内陸部の市町村にフィードバックすることができると考えられる。
 - ・ 一方、沿岸部で津波の被害を受けた地域については、人命救助が続けられていること（いつ終わるかの見込みがわからない／情報が無いこと）、被害の実態や全容が十分に把握・整理できていないこと、復興・復旧の方向性が不明であることなどから、まだ、対応戦略の立案に向けた課題が山積しているという印象である。ただし、非常に複雑な状況にあるため、急ぎ過ぎずに、一定の調査・議論を経て、ロードマップを作成していく必要があるとの印象も持った。また、廃棄物処理のみならず、復興・復旧には様々な部局が関係するため、よりスムーズな情報交換や意思決定・実行のためには、クロスセッションの特別チーム（農政、都市計画、港湾、地域振興、環境等の部局による）を編成することなども有効と考えられる。

人命捜査・救助は最優先課題であるものの、今後の復興作業への移行（重機を入れられるか、否か）を考えると、エリアで区切ってフェーズ分けしていくなどの連携・対応も必要と考えられる。

被害の実態や全容の把握・整理については、適切なエリアに分けた（ゾーニングした）上で、いくつもの視点から行う必要がある。主に廃棄物処理の観点から、まず思いつく限り列挙しておく。

大まかな現在（将来）の状態

人命救助中／終了後

陥没し海水がたまった状態のエリア（海水が引くと、下の泥地になる可能性が高い）

泥（海底泥・海岸砂）に覆われたエリア、解体家屋などが山積みとなったエリア、草木が中心に堆積したエリアなどがある（写真参照）。

廃棄物残存量及び発生・移動量（相当、海へ流出していることが想定される；発生量については、市及び平山試算が出つつある）

廃棄物の種類や質（海水や、場合によっては有害物質を含むものも考えられる）

周辺土壌等の質（廃棄物や周辺施設の影響、津波巻き上げ泥等の影響で、そもそもの性状と大きく異なる可能性が考えられる）

津波漂着廃棄物の質・量（ほとんど未着手と考えられる）

復興・復旧の方向性については、現地の学識経験者を交えた検討が始まっているとのことである。

るが、住民の意見や の結果などを十分に踏まえて検討する必要がある。

- ・ なお、町（避難所等を除く）については、一部開店し始めた飲食店やコンビニ、商店なども見られ、ガソリンさえ供給されれば、市民生活としては飛躍的に復旧が進むと想像される。今後、沿岸部と内陸部との温度差が出てくることなども懸念される。

6. 主な活動内容及び記録写真

7:20 仙台市着

8:00 仙台市環境局 小林陽一氏（次長 兼 環境部長）を訪問し、順次、川辺直氏（環境部 参事）、大友望氏（次長）、石井鉄雄氏（環境対策課 課長）、高橋泰氏（環境都市推進課 課長）、鈴木陽氏（環境調整課 係長）、藤原貴徳氏（環境局総務課 主査）らをご紹介頂く。

9:15 仙台市環境局長 萱場道夫氏を訪問し、学会間の書類をお渡しする。

9:30～13:00 仙台市の方々のご案内で、神戸市からの笠原敏夫氏とご一緒に、現地視察へ出発する。ルートは、ほぼ、後のページのピンクの線の通りであるが、沿岸部の津波被害地区を中心に回った。特に、丸印のついている海岸公園冒険広場、消防ヘリポート及び海岸公園（神宮）の三カ所は、市が廃棄物一時集積所として検討しているところである。主な地点の写真を紹介する。

13:30 佐藤良信氏（仙台市環境局環境部環境対策課水質係 主任）のご案内で、現地確認に出発する。

13:45 日本たばこ産業・仙台支店に立ち寄り、越後屋幸雄氏（支店長）、畠山靖氏（業務部次長）らを訪ね、ご挨拶と現地支援の依頼、情報交換をする。

14:00 午前とはほぼ同じルートで沿岸部へ向い、適宜、記録や試料採取（別紙）を行う。

17:45 帰り道に、TS ネットワーク澤田行壮氏（仙台流通センター所長）らを訪ね、ご挨拶と現地支援の依頼、情報交換をする。

18:30 仙台市役所周辺へ戻り、京都市環境政策局からの第二陣の見送りをする。

19:00 仙台市役所環境局に戻り、小林氏らと意見・情報交換を行う。

21:30 活動終了。

7. 今後の活動予定（案）

3月27日		現地確認（沿岸部続き）
3月28日	現地関係者・吉岡先生と合流（予定）	方針の議論・検討
3月29日		現地確認（山ごみ）
3月30日		
3月31日	平山移動日	
4月1日		山ごみ対応の記録・マニュアル化
4月2日		
4月3日		
4月4日		
4月5日		
4月6日		
4月7日	浅利移動日	

写真

陥没し海水がたまった状態のエリア

海岸部はもちろんのこと、数百 m 入ったところにも、海水がたまっている部分がある。まだ、人命救助・捜査が行われていないと考えられ、まずは排水等の検討・措置が必要である。田んぼエリアも多く、復旧への影響が懸念される。



泥（海底泥・海岸砂）に覆われたエリア
津波が海から巻き上げてきた砂や泥に覆われている。概ね 5cm 程度の層だが、油分が混じっているエリアも見られる。



解体家屋などが山積みとなったエリア

量や、解体度合いに違いがあるが、全体に雑然と様々なものが混在しているのは共通している。まだ、人命救助フェーズの只中というエリアもある。もともとの地にあった家屋等の廃棄物もあるが、津波によって他の場所から運ばれてきて滞留したものも多いと思われる。



草木が中心に堆積したエリア

海岸から数 m の松林があったが、その松の木や松の枝葉が積もったエリアが象徴であるが、他にも、巨木などが突き刺さったエリアが見られる。



【そのほか】周辺への影響が懸念される施設等
シュレッダーダストの山（行政が処理予定だった）
津波の際、この上に逃げて助かった人もいたほどの山

東北油化工業(株)（廃油等処理施設）

<http://www.t-yukakogyo.co.jp/>



【参考】仙台市内の様子

やはり大通りに面しては倒壊建物が少ないためか、ほとんど地震のダメージを受けている印象はない。ただし、歩いていると、ところどころ、道路が陥没していたり、標識が斜め向いていたりといったものもある（右）。町中は、バスやタクシーが中心に走っている（左）。また、売り出しやガソリンスタンド、ATM などには、渋滞や列ができていたりした。



